第55回　福岡県地方史研究協議大会

福岡県の洪水

－次の世代に語り継ぐ、忘れてはならない歴史－

主　催　　福岡県教育委員会

共　催　　福岡県地方史研究連絡協議会（福史連）

期　日　　令和４年６月２５日（土）

会　場　　福岡県立図書館レクチャールーム（本館地下１階）

日　程

１３：００　開　　会
◆主催者あいさつ
◆福史連会長あいさつ

１３：１０　研究発表（１）　（３０分）
「江戸時代の遠賀川流域の洪水」
発表者　千々和　昭男 氏（直方郷土研究会）

１３：４０　研究発表（２）　（３０分）
「昭和２８年６月の豪雨による八女地域大災害」
発表者　山口　祐士郎 氏（懐良親王顕彰会）

１４：１０　休　　憩　　（１０分）

１４：２０　研究発表（３）　（３０分）
「１９７９年行橋市６・３０水害を振り返って」
発表者　山内　公二 氏（美夜古郷土史学校）

１４：５０　講　　演　　（４０分）
「公文書でみる福岡県の災害」
講　師　津中　由紀 氏　（福岡共同公文書館）

１５：３０　閉　　会

講師プロフィール

◎千々和　昭男（ちぢわ　あきお）　氏

所属	直方郷土研究会
研究テーマ	古文書解読による郷土史
主な執筆・著作	『角川日本地名大辞典４０　福岡県』（角川書店、1988 年）、『香月の歴史と文化』（1993 年）、『北九州市の文化財随想』（北九州市の文化財を守る会、2012 年）、『北九州歴史散歩　筑前編』（海鳥社、2020 年）

◎山口　祐士郎（やまぐち　ゆうしろう）　氏

所属	懐良親王顕彰会
研究テーマ	筑後・九州地域における南北朝史
主な執筆・著作	

◎山内　公二（やまのうち　こうじ）氏

所属	美夜古郷土史学校
研究テーマ	京築地域史（交通史、産業史、人物誌）
主な執筆・著作	『京築風土記』（美夜古郷土史学校、1977 年）、『京築の文学碑』（美夜古郷土史学校、1984 年）、『新京築風土記』（幸文堂出版、2017 年）

◎津中　由紀（つなか　ゆき）氏

現職	福岡共同公文書館　主任相談員
専門	特定歴史公文書に関する利用・相談及び普及
主な執筆・著作	「福岡共同公文書館における作業の見直しについて―目録編集を中心に」（平成２６年度アーカイブズカレッジ（短期）終了論文）、「福岡共同公文書館における評価選別―これまでの評価選別、これからの評価選別―」（令和元年度アーカイブズ研修Ⅲ終了研究論文）、「市町村の現地選別における報告と今後の課題」（平成３０年度福岡共同公文書館年報（第７号））、「福岡共同公文書館の文書移管状況について～市町村を中心に～」（令和元年度福岡共同公文書館年報（第８号））

［研究発表①］

江戸時代の遠賀川流域の洪水

千々和　昭男（直方郷土研究会）

Ⅰ　洪水の記録

遠賀川流域は低地が多いため、古くから洪水が繰り返されてきました。その低地を示す言葉として「１野面、２新延、３奈良津」がありました。近世にはこの三か村は鞍手郡内にありました。中世以前の洪水については記録がほとんどありませんが、近世の洪水については、庄屋文書などに記録されています。

・１６９４（元禄７）年５月２９日より大雨。閏５月朔日洪水、大土手筋が所所破損。(『筑州鎮守岡郡宗社志』より抄訳)

・１７０２（元禄１５）年６月２８日大雨、山汐出る。転家４２軒。村中が川になり流れる。三吉の洞源寺は山抜けする。
(『年暦算』(遠賀郡鬼津村井ノ口家）より抄訳、以下同じ)

・１７７７（安永６）年６月朔日雨大いに夜に入り雷大いに洪水となる。４０年以来の大水と言う。

・１７７９（安永８）年６月２６日大風雨、大汐満ちる。８月４日大雨、同５日昼夜雨続き、本川筋大洪水。広渡村抱３カ所土手切れる。鞍手は植木、雁田、奈良津の所所は大破損なり。川筋村々は水底なり。

・１７９０（寛政２）年５月１８日より降りだし、２１日大雨。２２日雨天。２３日暮れ方より又大雨降る。２４日晩方、老良本土手５０間程が破損。

・１８０４（文化元）年５月１５日大雨、川筋３０年来の大水で、島津本土手４０間ばかり切れる。田地多くが根付け出来ず。底井野、大隈は大破損。若宮内の山口川は所所破損。是ほどの大水はいまだ聞かずと老人の話なり。

・１８１１（文化８）年５月３日、田植え初めより大雨降り続き９日降る。川筋表大洪水、芦屋村浜口土手切れる。近年珍しい大雨なり。

・１８３６（天保７）年田植え後雨天続き、大水洪水出る。６月１５日まで雨天。その後も雨多し。夏中度々洪水で、川筋島郷に払川、山鹿、鞍手に新延、中山辺が水損。

・１８３８（天保９）年６月２６日、７日、８日大風、川筋洪水、老良土手切れる。川西の田圃は湖水のごとし。鞍手の奈良津も切れ、この節の大水は３０年余と言う。

・１８４０（天保１１）年６月４日の夜より大雨降り出し、５日朝まで大いに降り洪水になり、所所破損多く、家を押し崩し流れる。７日、８日にかけ少し引く所に、９日より又大雨降り出し、終夜降る。大洪水に忽ちなり破損、土手切れ、山付き川筋とも数知れず、人家も牛馬も流れる。植木町お米蔵が流れる。同所の新屋酒桶３０本流れ捨てる。米倉に水入りぬらすもの多し。その外家財、衣類入れの櫃、箪笥が大いに流れる。土手も切れる。さる５日より水に入り、又９日の大雨で１４日まで田圃に水が入り、水を引き落としたが、一面に青みが見えない。どうなるかと皆呆然とする。山付き並びに高みは青々としている。川筋は水損、腐れ切りなど多い。芦屋の観音丸という船は米１００俵を積んで流れ出た。４０人ほどが船に乗ってあれこれ加勢したが地の島まで流れた。また川上から川ひらた数艘が流れ、海へ出て行方知れず。その中には人が乗った船もあり、「助けてくれ」と泣く声が哀れである。国中で１０万石の損毛、死人１００余人。

・１８５０（嘉永３）年５月２８日より雨降り出し、６月３日まで大雨降る。言葉に絶えない大洪水になる。この節の大水は古今まれなる珍事なり。同２日より水いよいよ増し山下道は渡ることができず。この辺は屋敷まで水が上がる。山の下は床の上に水が上がる家が多い。川筋村々の老人、女、子どもは１人も村内にいない。皆山沿いの村々に逃げる。当所には松本の者皆が来る。牛馬も同様。若松前土手上は皆水に入り村中の人家は言うに及ばず、土蔵に水が入り、籾雑穀は水に入り皆もえる。川筋土手筋は皆水に入り、大川本土手だけが見える。誠に潮のごとし。本土手切れは中間、植木、雁田、島津。この辺の田圃低みは５月２９日より６月７日まで。高みは朔日より７日まで７，８日の水入りなり。さ

る天保１１年の水よりは十倍の水なり。

・１８５３（嘉永６）年５月１５日田植え初めより大雨降り、１８日まで降る。大洪水で田植え止める。島津の本土手切れる。

・１８５５（安永２）年５月１８日、９日大雨降り、大洪水。木屋瀬、島津土手切れ。

・１８６７（慶応３）年５月の田植え後、雨が降り続き６月１８日まで３８日間雨降り６月１２日より大水出る。１８日まで本川洪水。

このような度重なる洪水に対して、村人は水が村に入らないように水門を造りました。江戸時代には沢山ありましたが、今では飯塚と直方の３カ所に残っています。道の両側にある石に溝が掘られ、そこに板をはめる仕組みでした。安政６年の大雨の時に感田村の瓜生長作は堤防にある取水用の水門を守り、濁流に流されました。その記念碑が菜の花大橋近くに建っています。

２　洪水対策

１６００（慶長５）年に黒田長政は筑前に入国すると、流域の新田開発や遠賀川大改修工事を命じました。当時は遠賀川は東流れと西流れに分かれていたので、排水をよくするため、奈良津から河口までの築堤、開削を命じました。上流の水を直線的に流すため、広渡と立屋敷の間の川を開削し、堤防は左岸は垣生から広渡、右岸は中間から古賀まで築かれました。工事は１６１３年に着工して１６２８年に完成しました。

この工事人は御牧、鞍手、宗像、嘉麻、穂波５郡の百姓でした。その後、上流からまっすぐ芦屋に流すため、左岸の広渡から島津まで、右岸の古賀から猪熊まで土手が築かれました。この工事は１７４４年に着工して、１７５０年に完成しました。

また、長政は洪水対策、農村の灌漑、物の運搬などのため、中間から折尾を経て洞海湾に流れる堀川を造ることにして、１６２１（元和７）年に工事が着工しました。しかし、長政が１６２３年に死去したため工事は中止になりました。この工事を担当したのは栗山大膳であるため、大膳橋や大膳堀などの地名が残っています。

その後、６代藩主黒田継高が１７５１（宝暦元）年に工事を再開しまし

た。初めは大膳堀を掘っていたが上層土が落ちるので、北側の車返しの岩盤を切り抜くことに変更しました。この工事は１７５７（宝暦７）年に完成しました。しかし、川幅が３間と狭いため、６間に広げる工事が行われ、１７５９（宝暦９）年に完成しました。

さらに折尾から洞海湾まで通じる工事が完成したのは１７６２（宝暦１２）年でした。遠賀川から堀川に水を引き入れる水門が中島にあったが、水勢に崩されるため、総社山の岩盤に水門を造ったのもこの年でした。しかし、遠賀川を石井手でせきとめるため、上流に水害が発生しました。そこで、川口を北側の楠橋村に移すことになり、その工事が完成したのは１８０４（文化元）年でした。

【参考文献】
香月　靖晴『遠賀川』（海鳥社　1990 年）
林　正登『遠賀川流域史探訪』（葦書房　1989 年）
桟 比呂子『運河堀川　四百年の歴史を語る』（海鳥社　2019 年）

［研究発表②］

昭和 28 年（1953 年）6 月の豪雨による八女地域大災害

山口　祐士郎（懐良親王顕彰会）

１　矢部川と広川の概要

矢部川は福岡県と大分県、熊本県の県境より発し山間部より支流が流れ込む。筑後平野南部を下り有明海に達する延長６１キロメートルの１級河川。

地域東部の矢部や星野、南部の辺春や白木は山間地で特に東部上流は急峻な山地であり、中流部の黒木から扇状地が広がり、八女・筑後は田園地帯や市街地となっている。

広川は久留米の高良山を西端とし東へ連なる耳納連山の南斜面から流れ出て八女丘陵の北側に沿って流れ、田園地帯など下り、筑後平野中部を流れる筑後川へ流れ込んでいる。

２　昭和 28 年（1953 年）６月の天気概況

６月上旬から梅雨前線が活発であった。その後、九州を上下しながら大陸の高気圧と太平洋高気圧に挟まれた梅雨前線は九州の中部を横断し、九州中部から北部に 6 月 25 日から 29 日に大雨を降らす、八女地域は特に 25 日と 26 日にかけて豪雨となった。

３　６月下旬の豪雨による八女地域での災害

急峻な山地より流れ込む河川と山林崩壊による土砂礫や立木や貯木が流下し道路や井堰・橋梁・民家及び工場を押し流す。さらに押し流されたものが下流のものにぶつかり、それらをまた破壊していった。

山は地滑りや崩壊をおこし、川をせき止めたり川床を浅くして流れを変えさせたり道路に乗り上げ道路を川となしたり、田畑を川床にする。川沿いの県道は決壊や橋梁の流失で寸断され同じ地区内でも状況が分からなくなる。

４　星野村での集団的犠牲

星野村では人工的に作られた金鉱山の鉱滓ダムが決壊し一瞬にして 13 戸の民家をのみ込み多数の死者と重軽傷者が出た。

被災者の救出作業に地元住民など官民問わず従事し、特に地元消防団員の献身的な活動は素晴らしかったが、殉職者も多く出た。

５　学校施設の被害

東部町村の小中学校では校舎が川沿い或いは谷あいの低地にあり、濁流による大破・

中破や流出あるいは土砂礫が侵入する被害が多かった。扇状地から平野部でも濁流と上流からの流出物での被害は甚大であった。

広川でも山地奥から流出する濁流と山崩れと相俟ち、さらに流木や麦藁が橋に折り重なり欄干を覆うなどして被害や犠牲者を出した。

被災後の自治体の共通要望事項として、矢部川の恒久的改修や治山、治水対策等があり、日向神ダムや広川ダム建設へ進んでいった。

以上、被災当時を体験された方の話と以下の参考文献による。

【参考文献】

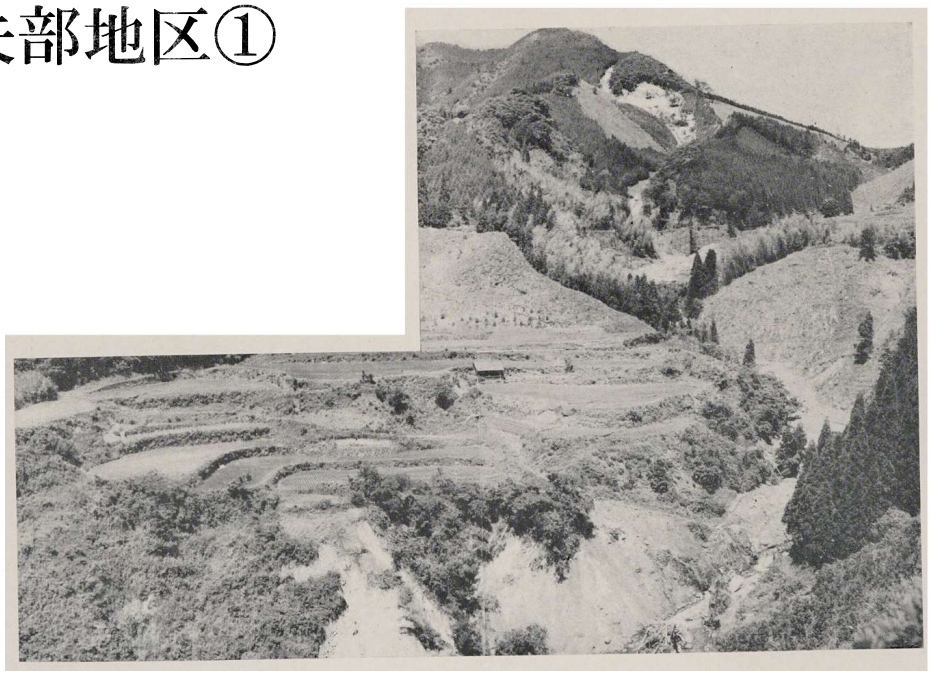
「昭和二十八年　八女郡水害誌」　園田 展右／編　八女郡町村長会　1954.4

※別添参考資料の画像及び写真は全て本書による。

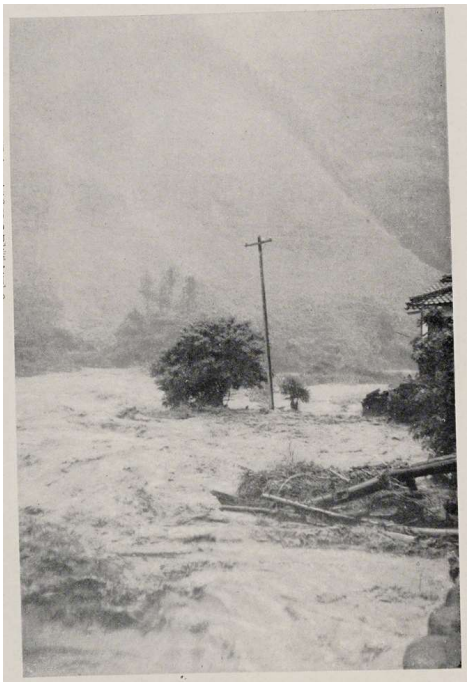


福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

矢部地区①



矢部地区②



福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

矢部地区③

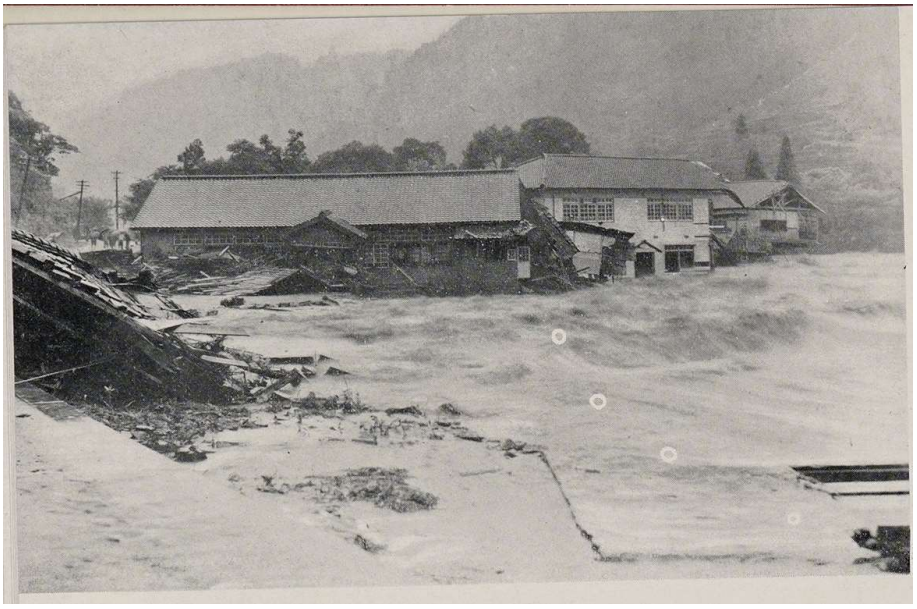


大淵中学校①



福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

大淵中学校②



笠原・黒木地区①



福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

笠原・黒木地区②



笠原・黒木地区③

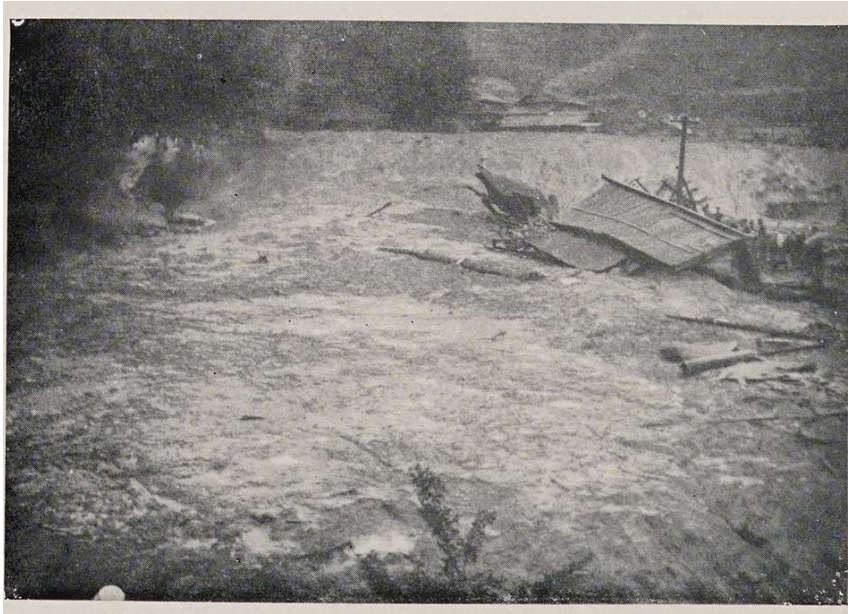


福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

星野地区①



星野地区②



福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

星野地区③



八女市（福島）①

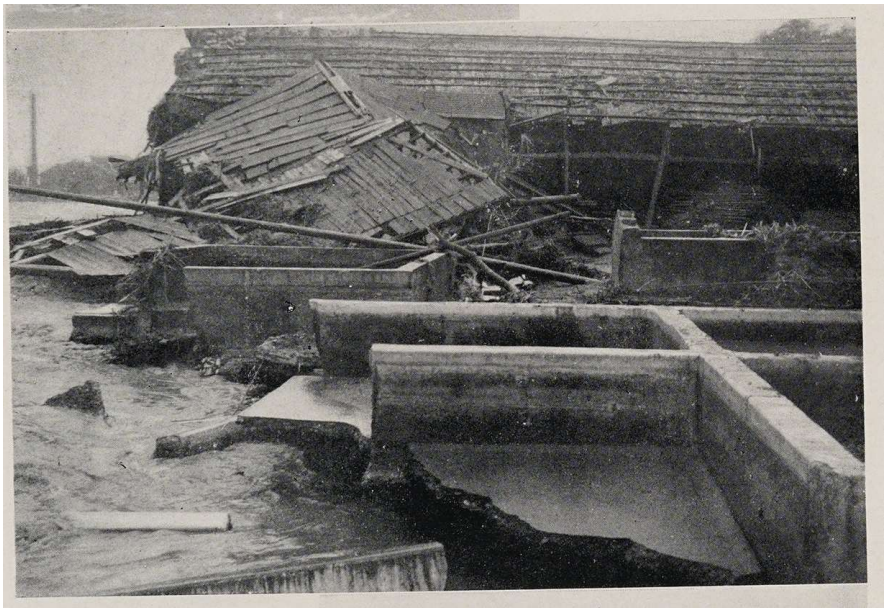


福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

八女市（福島）②



八女市（福島）③



福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

広川地区①



広川地区②



福岡県立図書館／デジタルライブラリ「八女郡水害誌　昭和二十八年」より

［研究発表③］

１９７９年　行橋市６・３０水害を振り返って

山内　公二（美夜古郷土史学校）

行橋市では、昭和５４（１９７９）年６月２６日からの断続的な豪雨に加えて、３０日未明の約８時間に２６５㍉という集中豪雨（降り始めからの雨量は６００㍉）にみまわれ、あっという間に市内の河川が決壊・氾濫。周防灘の満潮とも重なって、市街地の７０％と水田の９０％（２３００㌶）が水浸しとなり、総額３０億円をこす大きな被害を受けた。

（被害の詳細は添付資料①「市報ゆくはし」参照）

当時、市総務課広報係長だった私（３９歳）は、市災害対策本部の業務に従事した。私の任務は、①市民への広報、②被害状況の把握、③報道機関への連絡などであった。思い出に残る当時の業務概要とその後について振り返ってみたい。

１　自衛隊ヘリコプターに搭乗、被害状況の撮影

救助活動のため自衛隊が次々に来てくれた。ヘリコプターも上空から被害の様子を視察するという。私が「被害の様子を写真撮影したいので搭乗させていただきたい」と申し出た所、許可が下り、搭乗させてもらった。

私は、パイロットに山手（市の西側）から海岸線（市の東側）までの行橋市域の説明をしながら、水浸しのわがまちに対し、懸命にシャッターを切りまくって写真に収めた。

２　ＮＨＫテレビ　午後７時のニュースで大きく報道

私はヘリコプターを降りて、午後３時過ぎ、本部に帰り、取材に来ているマスコミ各社に、空から見た被害の大きさを説明した。

しかし、ＮＨＫの行橋通信部のＨ記者の姿だけ見当たらない。北九州放送局に電話すると、以前、行橋駐在だったＫ記者がデスクで「Ｈ記者は、朝から京都郡の山崩れで生き埋めになっている事故の取材中」という。「行橋の水害は大変だ。まちじゅう水に浸かっている」と説明した。北九州放送局はすぐにヘリを飛ばして撮影したらしく、被害状況などくわしい説明を求められた。

総合テレビの午後７時のニュースがはじまると、「福岡県行橋市で集中豪雨。大きな被害」と、大きく報じられた。

３　長峡川（ながおがわ）を「ながさがわ」と報道

ＮＨＫをはじめ各放送局が、行橋市の水害報道で、２級河川長峡川の名前を「ながさがわ」と繰り返して読んでいる。我々は「ながおがわ」と読んでいるので「間違いですよ」というと、県行橋土木事務所の河川台帳には、「ながさがわ」となっているという。

私は、土木事務所に「間違いではないですか」と電話すると、次長がすぐに訪ねてきた。私は「京都郡誌」などを提示して「古代に長峡県（あがた）がおかれていたので、『ながおがわ』という名前がついたと思われる。昭和２２年に開校した長峡中学校も『ながお』と読む。行橋市の地元の者は『ながさ』とは言わない」と訴えた。

次長は「帰って協議する」と言って帰ったが、すぐに県と協議してくれて、その後、「行橋市のながおがわ」と放送されるようになった。

４　その後の広報業務

浸水していた地域も水が引き、次第に平常に戻ってきたが、その後の復旧作業の取材のため、連日マスコミ各社の来訪は続いた。

「水害被災地の消毒作業を撮影したい」、「浸水被害を受けた家財道具の処理は」、「被災者の相談窓口は」と質問は次から次へと続く。亀井県知事も災害現地視察に来られた。

また、テレビの全国放送後、数日にして、全国から続々と支援物資が送られてきて、みるみる市民会館のロビーがいっぱいになってしまった。

そんな中、７月１５日号の「市報ゆくはし」４ページを編集・発行し（別添資料１－１～１－３）、「朝日ジャーナル」の「列島診断」の寄稿依頼の原稿を書いた。（別添資料２）

５　激特事業による長峡川水系改修事業

「６・３０水害」で大きな被害を受けた長峡川水系の整備を図るよう国や県に強く要請した結果、福岡県内では初めての「激特事業」として、河川の大規模改修が行われることになった。

「激特事業」とは「激甚災害対策特別緊急事業」の略称で、洪水など激甚な災害が発生した地域について、河川の改修事業を緊急に実施し、５カ年で完成させることにより、国土の保全と民生の安定を図ろうというもの。

この事業で、長峡川は河口付近を中心に１１・２キロメートル、小波瀬川は４・１キロメートル、井尻川は６・２キロメートルの合計２１・５キロメートルで川の曲がりを直して川幅を拡げた上、ブロックで護岸して、川底を１～２メートル程度掘削して引き下げる。また、これらの水系に架かっている３８ヵ所の橋のうち、老朽化したものなど２７基をコンクリート橋に架け替え、井堰１３ヵ所も改修する―というものだった。

この事業推進のため、昭和５６（１９８１）年６月、県長峡川改修事務所が開設され、河川改修工事に伴う用地１２万３０００平方メートルを買収するため、家屋１２３戸に移転してもらう大事業を成し遂げた。

総事業費１５０億円を投じた事業は、昭和６２（１９８７）年３月に完了した。

６　その他の都市基盤整備

行橋市街地の都市下水路は、東部・西部・北部・南部など５下水路が平成８（１９９６）年までに完成。

下水道整備計画も平成４（１９９２）年に策定され、平成７（１９９５）年度から下水管埋設工事が始まり、順次、拡大しており、平成１５（２００３）年には下水道浄化センターも完成した。

７　今、想うこと

近年、北九州大水害などの聞き取り調査の記録などが刊行されている。しかし、行橋市では「６・３０水害」の当時の記録はもうほとんどない。わずかに、１７年前に刊行された「行橋市史」と「写真集」に掲載されているくらいだ。

大水害から４３年が過ぎた今、市職員でさえも、当時を知る者はいない。

災害記録とその後の河川改修記録は、しっかりと、後世に伝えるために整えておかなければと、痛切に感じる。

市報
ゆくはし

No. 329

発行 福岡県行橋市役所
☎ ③ 0650
編集 総務課長 平井克己
印刷 ㈱文信堂印刷所

54.7.15

市の人口

総数	60,711
男	28,803
女	31,908
世帯数	17,254
前月比 人口	99増
前月比 世帯数	40増
面積	68.65㎢

（54.7.1現在）



長峡川の決壊・氾濫で水浸しとなった延永地区（自衛隊ヘリコプターから、6月30日午後2時撮影）

6.30水害で大きな被害

死者　一人
住家の全壊　二棟
住家の半壊　一棟
床上浸水　二、二九〇棟
床下浸水　五、五七一棟
田畑の流失・埋没　一〇〇ha
田畑の冠水　一、九七八ha
道路の被害　一〇八カ所
橋の流失　六カ所
河川の被害　一五八カ所

六月二十六日からの断続的な豪雨に加えて、三十日未明の約八時間に二六五㍉という集中豪雨（降りはじめからの雨量は六〇〇㍉）にみまわれ、あっという間に市内の四つの河川が決壊、氾濫。周防灘の満潮とも重なり、全市水浸しとなって総額三十億円をこす大被害を受けました。被災者のみなさまに心からお見舞申しあげます。

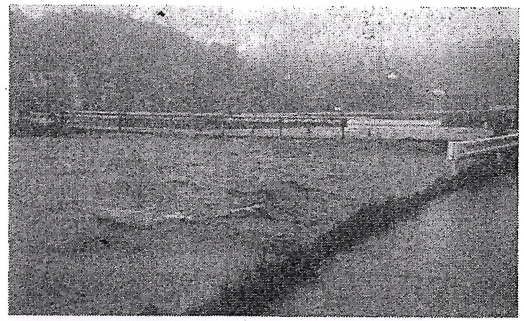
市では、ただちに災害対策本部を設置。自衛隊にも出動を要請し応急復旧や救助活動、さらには防疫活動、復旧作業などに全力をあげてつとめました。

今回の水害では、本市に災害救助法が適用され、県や日赤をはじめ各地から心暖まる救援物資がおくられてきています。床上浸水のご家庭には少額ながら市からのお見舞金とともにお届けさせていただきました。

市議会でも災害対策特別委員会が設置され、市とともに早期復旧と各種補助金の交付などを国県に強く陳情していますが、亀井知事をはじめ、衆・参両院議員、県議会災害対策特別委員のメンバーなどの視察調査がつづいています。

「市報ゆくはし 昭和54年7月15日　No. 329」より抜粋　著作権法第三十二条第２項による転載

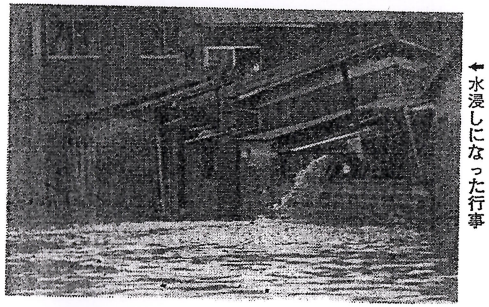
〝6・30水害〟



⬆30日午前8時ころ、増水した長峡川。このあと中川渡橋は流失した



⬆小波瀬川が欠かいして崩れた堤防（常松）



⬆水浸しになった行事



⬆水浸しになった都市街路上宮市一草野線



⬆水浸しになった国道10号線（行事京町）



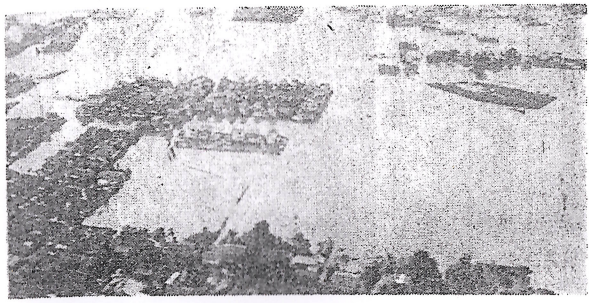
⬆欠かいした長峡川堤防の県道（稗田）



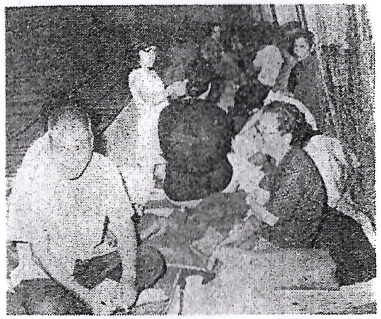
⬆土のうづくりをする自衛隊員（文久海岸）

カメラでみる

全市水浸しとなった〝6・30〟水害大きな被害を受けたこの水害の模様をカメラで追ってみました



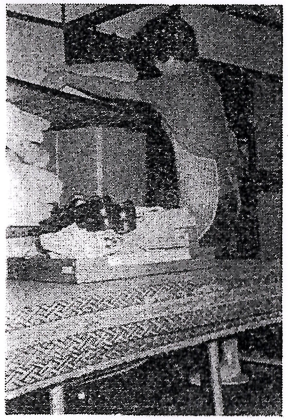
⬆水浸しになった草野村近



⬆京都高校に避難した被災者



⬆救助活動にあたる自衛隊員（行事）



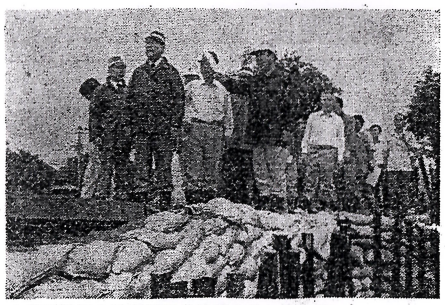
⬆床上まで浸水した住家（緑町）



⬆流された橋ケタを高台に上げる人たち（上稗田の銀柳木橋）

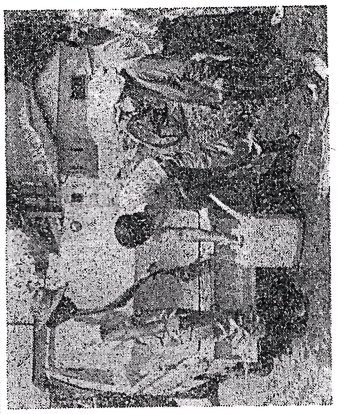


⬆長峡川の欠かいで土砂が流入した水田（稗田）

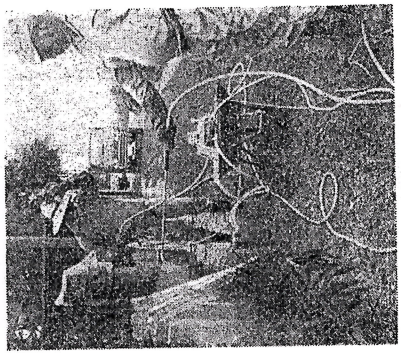


⬆稗田地区の被害状況を視察する亀井知事

「市報ゆくはし 昭和54年7月15日 No. 329」より抜粋 著作権法第三十二条第2項による転載



▲被害のひどかった土岐田に給水をする水道局職員



▲浸水家屋の内外の防疫活動



▲全国各地からつぎつぎに救援物資が届いた（市民会館）

後始末におおわらわ



▲被災地区のゴミ収集（下岩田）



▲水につかった畳約四千枚を埋めた（築島干拓）



▲被災者のみなさんのため市役所に災害相談所を開設。約五百件を受け付けた

お見舞ありがとうございました（順不同・敬称略）

福岡県知事亀井光、豊前市、椎田町、築城町、北九州市、吉富町、新吉富村、大平村、大谷田市、北九州国道工事々務所、衆議院議員田中六助、衆議院議員渡辺政夫、県議会議員井上勝、日本電電公社、行橋郵便局、熊本中央郵便局、玄洋社、行橋土木組合、民社党福岡県連、ライオンズクラブ国際協会三三七複合地区、ライオンズクラブ国際協会三三七A地区、明治生命保険相互会社、田村産設、自治労福岡県本部、森本病院職員互助会、昭和電業社、行橋市社会福祉協議会、行橋新聞販売組合、ユニバーサル電子計算機、国際航業、住友生命保険相互会社、金光教北九州教務所、日本赤十字社福岡県支部、ヤクルト行橋営業所、関西ペイント、北九州コカ・コーラボトリング、行橋商工会議所、高橋建設、杉生ストアー、末松産業、西日本コンピューター、福岡相互銀行、富士火災海上保険、西鉄観光、北九州放送、NHK北九州放送局、部落解放同盟門司地区協議会、京都学校給食用品会、富士ゼロックス、西鳥越建築設計、大里水道、日本コム、京都繊維製品卸会、京都繊維製品卸組合、月産化成、駅前生命保険相互会社、神鋼建設、朝倉生産、花王石鹸、広島YMCA全国部、白鳥会、岡田鐵製、島原ライオン、行橋商工会議所、ニプロ、北九州友の会、福岡県知事亀井光、豊前市、椎田町、築城町、北九州市、吉富町、新吉富村、大平村、大谷田市、北九州国道工事々務所、衆議院議員田中六助、衆議院議員渡辺政夫、県議会議員井上勝、日本電電公社、行橋郵便局、熊本中央郵便局、玄洋社、行橋土木組合、民社党福岡県連、ライオンズクラブ国際協会三三七複合地区、ライオンズクラブ国際協会三三七A地区、明治生命保険相互会社、田村産設、自治労福岡県本部、森本病院職員互助会、昭和電業社、行橋市社会福祉協議会、行橋新聞販売組合、ユニバーサル電子計算機、国際航業、住友生命保険相互会社、金光教北九州教務所、日本赤十字社福岡県支部、ヤクルト行橋営業所、関西ペイント、北九州コカ・コーラボトリング、行橋商工会議所、高橋建設、杉生ストアー、末松産業、西日本コンピューター、福岡相互銀行、富士火災海上保険、西鉄観光、北九州放送、NHK北九州放送局、部落解放同盟門司地区協議会、富士ゼロックス、西鳥越建築設計、大里水道、日本コム、京都繊維製品卸会、京都学校給食用品会

［講演］

公文書でみる福岡県の災害

津中　由紀（福岡共同公文書館）

はじめに（「福岡共同公文書館」とは）

「福岡共同公文書館」は、「福岡県立公文書館」及び「福岡県市町村公文書館」の総称で、福岡県と県内市町村（政令指定都市である福岡市・北九州市を除く県内58市町村）が共同で設置・運営しています。

福岡県と県内各市町村それぞれが作成した「公文書」の中から、当館の基準に基づき、行政の諸活動を記すものや当該地域の住民に対して説明責任を果たすための資料となりうるものを「歴史公文書」として選別し、それらを保存し利用に供しています。

当館の所蔵の「公文書」は申請をすればどなたでも閲覧することが可能です。ただし、公文書内には多くの個人情報等が含まれるので、時の経過を考慮し、個人・法人等の権利利益や公共の利益を保護するために審査を行った後、利用可能な部分を提供することになります。

本講演では、災害（水害を中心に）が起きた際に「行政」機関がどのように対応し、その後どのように復旧・復興していったのかを「公文書」で紹介します。

１　明治以前の福岡県の洪水

筑後川は、記録によると天正元(1573)年から明治22(1889)年に至る317年の間に183回の洪水が発生しています。このように、平均2年に満たない期間に1回の割り合いで起こる洪水に人々は悩まされていました。

遠賀川でも、元和6(1620)年から明治22(1889)年までの270年の間に、約70回の洪水が発生しているという記録があります。

２　明治～昭和初期の福岡県の洪水と治水事業

（１）筑後川

明治16(1883)年の福岡県会で筑後川の内務省直轄を求める建議が採択され、翌年に筑後川は国の直轄河川に指定されました。明治18(1885)年の水害を契機に内務省は翌年に筑後川の改修計画(第1期)を策定しました（工期は明治20(1887)年から27(1894)年

度）。しかし、明治22(1889)年の大水害により改修工事は挫折を余儀なくされ、計画を見直し、第2期改修工事が明治29(1896)年に起工され、36(1903)年に完工しました。

当館の関連文書
「明治23年度筑後川沿水工費概算支出簿」等
明治23(1890)年、24(1891)年、27(1894)年、28(1895)年、29(1896)年、30（1897）年の「筑後川治水工事費」の内訳や概算支払等の金額が記されている資料

大正10(1921)年に大洪水が発生するとすぐに新しい改修計画が立てられ、大正12(1923)年から昭和9(1934)年に改修工事が行われました。しかし、昭和10(1935)年に大洪水が発生し追加計画が立てられたが、日中戦争によって中止を余儀なくされました。

当館の関連文書
「江南村大洪水一件」（うきは市）
江南村（現在うきは市）の洪水発生時の記録です。

＊(　　)は移管元の市町村名です。特に記載がないのは県からの移管文書です。(以下同様)

（２）矢部川

矢部川の治水築堤事業については、古くは和銅6(713)年筑後国初代国司となった道公首名が、矢部川の築堤工事を行って、良田を作ったという記録が残っています。その後の治水に関する記録はなく、本格的に治水事業が行われたのは慶長6(1601)年の田中吉政の入国以降です。

矢部川は、明治24(1891)年に県営河川となり県営の改修事業が行われるようになりました。大正3(1914)年から本格的に河川改修工事が開始され、矢部川第1期河川改修工事に着手し、昭和2(1927)年に完成しました。その後、昭和3(1928)年の水害を契機に、昭和4(1929)年に矢部川第2期河川改修工事に着手し、昭和14(1939)年に完成しました。さらに、昭和21(1946)年の水害を受けて昭和25(1950)年から10年計画で第3次改修工事計画が開始されました。

当館の関連文書
「明治30年度筑後川矢部川治水工事支出簿」
改修工費、治水堤防費等が記されている資料です。

第3次改修工事計画関連文書
「矢部川総合開発計画について昭和26年2月調整」
「日向神堰堤予定地の地質について」
「矢部川総合開発事業全体計画書」

（３）遠賀川

遠賀川も明治以降毎年のように氾濫していました。特に、明治17(1884)年、22(1889)年、24(1891)年、38(1905)年は大洪水で、明治38(1905)年の大洪水を契機に39(1906)年から国の直営事業として第1期改修事業に着手し、大正8(1919)年に完工しました。第1期改修工事完工後は福岡県が維持管理を行っていましたが、その後も、昭和10(1935)年、16(1941)年に大洪水が発生し、昭和20(1945)年に再び国の直轄事業として、昭和23(1948)年に第2期改修工事に着手しました。

当館の関連文書
「内務大蔵両大臣伺指令綴」（赤村）
赤村の資料で、明治23年7月の洪水による堤防等の改修のための予算要求が記されています。

このように、福岡県では洪水等により長年にわたり河川改修工事を行ってきました。

当館所蔵をみると
昭和26年作成の「福岡県総合開発計画書（計画の部）」
には、総合開発建設事業として河川改修工事の実施が盛り込まれていることがわかります。

３　昭和２８年６月の水害

昭和28(1953)年6月25日から6月29日にかけて、九州地方北部（福岡県・佐賀県・熊本県・大分県）を中心に梅雨前線を原因とする集中豪雨による水害が発生しました。この集中豪雨は、平野部、山間部の別を問わず大きな被害を与え、九州北部の河川は大小問わずすべて氾濫し、堤防決壊や橋梁・道路流失などを招き、これ以前より営々と行われてきた治水事業は水泡に帰すことになりました。

（１）災害の発生と初期対応

○「六月四日～七日豪雨による災害対策要望事項」

昭和28年6月は4～7日にも梅雨前線と台風に起因する豪雨による災害が発生。この災害の対応の最中、25～29日に水害が発生しました。

各自治体は、被害状況の把握と被害者への対応を始めます。

○「被害陳情受付簿」（東峰村）
村民から小石原村長宛の豪雨被害に関する被害報告
○「被害状況調査表（中央）」他（朝倉市）
旧大福村の被害状況調査表

県は各市町村からの被害状況を取りまとめました。

○「六月二五日からの豪雨による災害被害額概況第1号」(7月3日)
○「六月二五日からの豪雨による災害被害額概況第2号」(7月6日)
○「六月二五日からの豪雨による災害被害額概況第3号」(7月9日)
○「六月二五日からの豪雨による災害被害額概況第4号」(7月28日)
○「六月下旬豪雨による被害額調書」(7月4日)農政部・農地部作成

県は取りまとめた状況をふまえ、国への要望書を作成しました。

○「六月二十五日来の豪雨災害に伴う財政援助要望書(昭和28年6月30日)」
6月30日国へ財政援助に関する要望書
○「六月二十五日以降豪雨災害対策要事項」
7月1日交通関係、衛生関係、食糧関係等各項目に対する要望をまとめたもの
○「災害救助法に基づく応急救助の概況」
7月2日現在の状況を国への報告するための資料

○「西日本災害対策特例法制定に関する要望書(昭和28年7月4日)」
補助金、国庫負担金等に関する立法の特例を中心とする単独法の制定の要望

（２）対応・対策

○「昭和二十八年七月三十日六月二十五日来の大雨による九州地方災害の警察活動概況」
昭和28年7月30日にとりまとめた、福岡警察管区本部の昭和28年6月25日来の大雨による九州地方災害(西日本水害)の警察活動概況に関する資料
○「水害に関する事績」（古賀市）
被害対策協議会の事績
○「昭和28年度水害見舞芳名簿大福村役場」（朝倉市）
○「昭和廿八年七月日誌（大任町水害対策本部）」（大任町）
水害対策本部の日誌綴（7月11日から9月25日まで）
○「水害事蹟（昭和二八年六月）」（田川市）
○「昭和28年6月及び7月の水害による特別措置法施行令（案）による指定（適用）地域調」
特別措置法施行令（案）による指定（適用）地域の調査報告（9月15日現在）

（３）報告書作成

○「今次災害及び最近の財政経済事情」（昭和28年9月3日作成）
災害状況及び経済状況をまとめたもの
○「昭和28年6月末豪雨毎時雨量分布図」（昭和29年1月作成）
○「北部九州災害総合調査報告書」（昭和29年3月作成）

（４）功労者表彰

○「昭和28年6月人命救助関係綴大福村役場」（朝倉市）
昭和28年度豪雨災害における人命救助に関する表彰の事績
○「昭和28年．6月大水害に関する事蹟」（遠賀町）
被害状況調査報告及び事務処理の事績

（５）記録の編さん

○「昭和28年6月大福村水害誌編纂関係事蹟大福村役場」（朝倉市） ○「昭和28年八女郡水害誌」（八女市） 八女郡水害の記録 ○「県政時報ふくおか災害特集号」 現「グラフふくおか」の前身

この水害は、過去営々と積み上げてきた治水事業を根本から覆す災害でした。国は、水害の続発による被害額の増大が日本経済の復興に影響をおよぼすことに懸念を抱き、農地灌漑や水力発電を組み合わせることで河川開発を行い日本経済の復興に資するとした河川総合開発事業や、さらに河川総合開発事業と組み合わせて治水と利水を同時に行える多目的ダムを建設と大規模な河川改修を行うことになりました。

関係資料目録

戦前

資料ID	移管元自治体名	完結年度	資料名	資料概要	公開状態
1-1-0015163	福岡県	M23（1890）	明治23年度筑後川沿水工費概算支出簿	事務所費等支出簿	公開
1-1-0015162	福岡県	M23（1890）	明治23年度筑後川沿水工費内訳簿	事務所費、棒給、嘱託手当等支出簿	公開
1-1-0015161	福岡県	M23（1890）	明治23年度筑後川沿水工費現金受払簿	事務所費、測量費等現金受払簿	公開
1-1-0015164	福岡県	M24（1891）	明治24年度筑後川治水工費内訳簿	築堤費、水門費、事務所費等支出簿	公開
1-1-0015112	福岡県	M27（1894）	明治26年度筑後川治水工事費概算支出簿	事務所費、築堤費等工事費概算支出簿	公開
1-1-0015168	福岡県	M29（1896）	明治27年度筑後川治水工費概算支出簿	明治27-29年度概算支出、事務所費支出簿	公開
1-1-0015169	福岡県	M28（1895）	明治27年度筑後川治水工費内訳簿	明治27-28年度事務所費、傭役料等支出簿	公開
1-1-0015167	福岡県	M29（1896）	明治28年度(筑後)川治水(工)費内訳簿	事務所費、測量費等支出簿	公開
1-1-0015109	福岡県	M30（1897）	明治29年度筑後川治水工費内訳簿	事務所費、測量費等帳簿	要審査
1-1-0015110	福岡県	M31（1898）	明治30年度筑後川矢部川治水工事支出簿	改修工費、治水堤防費等支出簿	公開
1-2-0004910	赤村	T 9（1920）	内務大蔵両大臣伺指令綴	明治23年7月の大洪水に伴い地租の減免を7分の1以上の課税にすることの許可書、他地租減免関係綴	要審査
1-2-0010028	うきは市	T10（1921）	江南村大洪水一件	大正10年6月の大洪水の被害状況、義捐金等関係事跡	要審査

戦後（福岡県文書）

資料ID	移管元自治体名	完結年度	資料名	資料概要	公開状態
1-1-0006579	福岡県	S26（1951）	福岡県総合開発計画書（計画の部）昭和26年6月		要審査
1-1-0007293	福岡県	S25（1950）	矢部川総合開発計画について　昭和２６年２月調整		要審査
1-1-0007297	福岡県	S25（1950）	日向神堰堤予定地の地質について	矢部川線総合開発計画に伴う地質調査結果　昭和25年7月	要審査
1-1-0006611	福岡県	S27（1952）	矢部川総合開発事業全体計画書（昭和27年10月）　（計画説明書、事業費予算書・電気事業費、解説及び計算書・日向神ダム応力計算書の合本）	知事室企画局作成の計画説明書、事業費予算書・電気事業費、解説及び計算書・日向神ダム応力計算書の合本	要審査
1-1-0039304	福岡県	S28（1953）	六月四日～七日豪雨による災害対策要望事項	福岡県作成の昭和28年6月の豪雨による災害対策要望事項	要審査
1-1-0006539	福岡県	S28（1953）	六月二五日からの豪雨による災害被害額概況　第１号	西日本水害被害額概況 昭和28年7月3日	要審査
1-1-0006541	福岡県	S28（1953）	六月二五日からの豪雨による災害被害額概況　第２号	西日本水害被害額概況 昭和28年7月6日	要審査
1-1-0006543	福岡県	S28（1953）	六月二五日からの豪雨による災害被害額概況　第３号	西日本水害被害額概況 昭和28年7月9日	要審査
1-1-0006545	福岡県	S28（1953）	六月二五日からの豪雨による災害被害額概況　第４号	西日本水害被害額概況 昭和28年7月28日	要審査
1-1-0007362	福岡県	S28（1953）	六月下旬豪雨による被害額調書	西日本水害による被害額調書 昭和28年7月4日	要審査
1-1-0006606	福岡県	S28（1953）	六月二十五日来の豪雨災害に伴う財政援助要望書（昭和28年6月30日）	西日本水害に伴う県から国への財政援助に関する要望書	要審査
1-1-0006618	福岡県	S28（1953）	六月二十五日以降豪雨災害対策要望事項	県作成の昭和28年6月の西日本水害に係る豪雨災害の対策要望事項	要審査
1-1-0007230	福岡県	S28（1953）	災害救助法に基く応急救助の概況	県民生部作成の災害救助法に基く応急救助の概況（厚生省報告資料）	要審査
1-1-0006679	福岡県	S28（1953）	西日本災害対策特例法制定に関する要望書（昭和28年7月4日）	県から国への西日本災害に対する特例法制定に関する要望書	要審査
1-1-0006880	福岡県	S28（1953）	昭和二十八年七月三十日六月二十五日来の大雨による九州地方災害の警察活動概況	福岡警察管区本部がまとめた昭和28年6月25日来の大雨による九州地方災害(西日本水害)の警察活動概況に関する資料 昭和28年7月30日とりまとめ	要審査
1-1-0006515	福岡県	S28（1953）	昭和２８年６月及び７月の水害による特別措置法施行令（案）による指定（適用）地域用	県作成の昭和28年6月及び7月の水害による特別措置法施行令（案）による指定（適用）地域用	要審査
1-1-0006603	福岡県	S28（1953）	今次災害及び最近の財政経済事情	西日本水害関係資料及び昭和28年経済状況等　昭和28年9月3日	要審査

1-1-0007693	福岡県	S28（1953）	昭和２８年６月末豪雨毎時雨量分布図	昭和28年6月西日本水害時の毎時雨量分布図	要審査
1-1-0006907	福岡県	S28（1953）	北部九州災害総合調査報告書	県企画局作成の昭和28年6月北部九州災害総合調査に関する報告書	要審査
1-1-0021112	福岡県	S28（1953）	水害関係事蹟（S28・6）	昭和26年大水害に関する事跡（百道松風園関係）	公開
1-1-0021113	福岡県	S28（1953）	被害状況写真	昭和26年大水害の写真（百道松風園関係）	公開
2-1-0024531	福岡県	S28（1953）	県政時報　ふくおか　災害特集号	昭和28年8月1日発行	公開

戦後（市町村文書）

資料ID	移管元自治体名	完結年度	資料名	資料概要	公開状態
1-2-0015519	東峰村	S28（1953）	被害陳情受付簿	村民から小石原村長宛の豪雨被害に関する被害報告	要審査
1-2-0025838	朝倉市	S28（1953）	昭和２８年６月　災害救助費繰替支弁金精算書控　朝倉郡大福村	災害救助費繰替支弁金精算書の綴（控）炊出しその他による食品の給興費、浄水用薬品及び資材受払状況、収容施設供興費等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025860	朝倉市	S28（1953）	昭和２８年６月水害　義捐救助物資送付書綴　朝倉郡大福村	昭和28年度豪雨災害の救助用物資送付書綴（物資品目、数量等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025861	朝倉市	S28（1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（石成）	昭和28年度豪雨災害（石成）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025862	朝倉市	S28（1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（乙王丸）	昭和28年度豪雨災害（乙王丸）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025863	朝倉市	S28（1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（西入地西部）	昭和28年度豪雨災害（西入地西部）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025864	朝倉市	S28（1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（上寺第四）	昭和28年度豪雨災害（上寺第4）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025865	朝倉市	S28（1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（東中町）	昭和28年度豪雨災害（東中町）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査

1-2-0025866	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（多々連）	昭和28年度豪雨災害（多々連）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025867	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（上寺　第二）	昭和28年度豪雨災害（上寺第2）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025868	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（上寺　第五）	昭和28年度豪雨災害（上寺第5）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025869	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（中町）	昭和28年度豪雨災害（中町）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025870	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（西長渕　三）	昭和28年度豪雨災害（西長渕3）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025871	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（立出　二）	昭和28年度豪雨災害（立出2）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025872	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（西長渕　第一）	昭和28年度豪雨災害（西長渕　第1）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025873	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年の水害における避難の事績（東長渕　第一）	昭和28年度豪雨災害（東長渕　第1）の水害における避難に関する事跡（住所又は事業所、世帯主氏名、世帯構成、年齢、職業、健康状態、人的被害、物的被害、避難先及び期間等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025875	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月水害による罹災者収容人名簿　朝倉郡大福村長	昭和28年度豪雨災害による罹災者収容人名簿（比良松中学校、大福小学校、十文字公民館、石成公民館、田中公民館、多々連公民館、上の原公民館、役場の各収容所）（旧大福村）	要審査

1-2-0025876	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月水害による罹災者収容人名簿　朝倉郡大福村長	昭和28年度豪雨災害による罹災者収容人名簿（比良松中学校、天理教、十文字公民館、乙王丸公民館、石成公民館、大福小学校、上の原公民館、役場、田中公民館、多々連公民館の各収容所）（旧大福村）	要審査
1-2-0025877	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月水害　各収容所収容状況　朝倉郡大福村	昭和28年度豪雨災害による各収容所収容状況に関する事跡（天理教宿泊所、役場階上収容所、中町飼育所、乙王丸収容所、石成収容所、大福小学校、上の原収容所、十文字収容所、多々連収容所、田中収容所）（旧大福村）	要審査
1-2-0025878	朝倉市	S28 （1953）	災害救助法の一部改正について等の通知綴	災害救助法の一部改正及び救助費基準額の一部改訂並びに救助費に関する調査の各通知の綴（旧大福村）	要審査
1-2-0025880	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年度　應急仮設住宅　社会	昭和28年度豪雨災害での罹災者のための応急仮設住宅に関する事跡（応急仮設住宅設計図、仮設住宅設置要綱、仮設住宅入居者一覧）（旧大福村） （内容年度は昭和28～29年度）	要審査
1-2-0025881	朝倉市	S28 （1953）	水害関係重要書類　大福村役場	昭和28年度豪雨災害での緊急復旧工事施工に係る短期資金借入申込みに関する事跡（罹災者見舞金支払明細書、被服・寝具・その他生活必需品、給与状況調べ、水害対策記録概要書）（旧大福村）	要審査
1-2-0025882	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月　毛布領収書類　大福村役場	昭和28年度豪雨災害での物資配分に関する事跡（毛布領収書綴）（旧大福村）	要審査
1-2-0025883	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年　救援物資受拂台帳　大福村役場	昭和28年度豪雨災害の物資配分に関する事跡（救援物資受払台帳（毛布・タオル布団・夏襦袢等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025884	朝倉市	S28 （1953）	無償　昭和２８年　救援物資受拂台帳　大福村役場	昭和28年度豪雨災害での物資配分に関する事跡（救援物資受払台帳（タオル・衣類・ツクダニ等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025885	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月水害　物資配分綴　朝倉郡大福村	昭和28年度豪雨災害での物資配分に関する事跡（物資配分表、衣料品配給割当表、缶詰配給表、食料品配給表等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025886	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月　人命救助関係綴　大福村役場	昭和28年度豪雨災害における人命救助に関する表彰の事跡（善行録、災害関係功労録、身分調書、功績調書）〈旧大福村）	要審査
1-2-0025887	朝倉市	S28 （1953）	溺れる者を死なすまじ　筑後川水難救命隊結成趣意書	財団法人水難救命隊組織本部作成の「筑後川水難救命隊結成趣意書　溺れるものを死なすまじ」（冊子）	要審査

1-2-0025888	朝倉市	S28 （1953）	被害状況調査表（中央）	昭和28年度豪雨災害での被害状況調査票（住所、氏名、世帯数、浸水の状況、畳使用不能数、住宅の被害状況、農具の流失状況等）（旧大福村中央）	要審査
1-2-0025889	朝倉市	S28 （1953）	被害状況調査表（東中町）	昭和28年度豪雨災害での被害状況調査票（住所、氏名、世帯数、浸水の状況、畳使用不能数、住宅の被害状況、農具の流失状況等）（旧大福村東中町）	要審査
1-2-0025890	朝倉市	S28 （1953）	被害状況調査表（大角）	昭和28年度豪雨災害での被害状況調査票（住所、氏名、世帯数、浸水の状況、畳使用不能数、住宅の被害状況、農具の流失状況等）（旧大福村大角）	要審査
1-2-0025891	朝倉市	S28 （1953）	被害状況調査表（十文字）	昭和28年度豪雨災害での被害状況調査票（住所、氏名、世帯数、浸水の状況、畳使用不能数、住宅の被害状況、農具の流失状況等）（旧大福村十文字）	要審査
1-2-0025892	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月　大福村水害誌編纂関係事蹟　大福村役場	昭和28年度豪雨災害の大福村水害史編算に関する事跡（編算予算案、世帯数及び人員表、水害史補助員名簿等）（旧大福村） （内容年度は昭和29年度）	要審査
1-2-0025893	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月　法第３條による及現地調辨　物資配給一覧表綴　朝倉郡大福村	昭和28年度豪雨災害での物資配分に関する事跡（物資配給一覧表(毛布、作業衣、地下足袋、鍋、羽釜、バケツ、洗桶、包丁、小皿等)）（旧大福村）	要審査
1-2-0025894	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年度　水害見舞芳名簿　大福村役場	昭和28年度豪雨災害の水害見舞芳名簿 宮野村役場（比良松中学校関係）（旧大福村）	要審査
1-2-0025895	朝倉市	S28 （1953）	昭和２８年６月　災害関係事蹟　朝倉郡大福村	昭和28年度豪雨災害に関する事跡（炊出し期間延長申請書、船艇・トラック・三輪車・その他借上状況調、収容所収容人員及び炊出し人員集計表等）（旧大福村）	要審査
1-2-0025934	朝倉市	S28 （1953）	昭和28年度　災害復旧單独起債関係書 平松中学校組合事ム所	昭和28年度豪雨災害の大福村外2ヶ村中学校組合申請の比良松中学校災害復旧単独起債関係書綴（起債許可、資金運用部長期資金借入申込書、事業計画書等）（旧大福村） （内容年度は昭和27～29年度）	要審査
1-2-0025874	朝倉市	S28 （1953）	水害状況報告　善光寺部落	善導寺駐在員より大福村長への水害状況報告（昭和30年3月）（旧大福村） （内容年度は昭和29年度）	要審査

1-2-0025848	朝倉市	S28 （1953）	二十八災　工事個所別一覧図　朝倉村 （２冊）	昭和28年度豪雨災害工事個所別一覧図 （旧朝倉村）	要審査
1-2-0025856	朝倉市	S28 （1953）	災害年度　昭和２８年度　地区番号２／７５号　会計検査提出書類 福岡県朝倉郡朝倉村	昭和28年度豪雨災害会計検査提出書類綴（工事請負契約書、工事仕様書、工事着手届、工事設計変更承諾書、工事完了届等）（旧朝倉村）	要審査
1-2-0001405	八女市	S28 （1953）	昭和２８年八女郡水害誌	八女郡水害の記録	要審査
1-2-0019489	みやま市	S28 （1953）	S28.6水害関係書類	見舞金受付簿、水害による緊急防疫薬剤使用予定調査表等　（高田村）	要審査
1-2-0009261	古賀市	S28 （1953）	水害に関する事績	6月25日の豪雨による被害対策協議会の事跡	要審査
1-2-0005382	遠賀町	S28 （1953）	昭和28年．6月大水害に関する事蹟	昭和28年6月大水害に関する被害状況調査報告及び事務処理事跡	要審査
1-2-0043200	田川市	S28 （1953）	水害事蹟（昭和二八年六月）	昭和28年6月25日からの西日本水害に係る災害対策に関する事績	要審査
1-2-0033551	大任町	S28 （1953）	昭和廿八年七月　日誌 （大任町水害対策本部）	昭和28年水害に係る水害対策本部の日誌綴（7月11日から9月25日まで）	要審査
1-2-0033526	大任町	S28 （1953）	昭和二十八年災害單独事業の綴　田川郡大任村役場	昭和28年災害に係る土木の小工事に関する事跡	要審査
1-2-0033543	大任町	S28 （1953）	一時借入金に関する綴	昭和29年度財政調整資金借入申込に関する事跡	要審査

令和4年6月25日

第55回　福岡県地方史研究協議大会

編集兼発行　　福岡県立図書館ふくおか資料室